



『覚・求・徹』

～ 校長室 だより ～

令和8年8月26日(水)

第6号

葛城市立白鳳中学校

校長 中川 順一

「やり抜く力」で
「まだできない」を「できた！」に替えていこう！
みんなが「学び」を楽しめる2学期に



大変暑い39日間の夏休みが終わり、いよいよ2学期がスタートしました。夏休み中は各部活動でコンクールや県大会、近畿大会への出場等めざましい活躍がありました。乳幼児とのふれあい交流会に参加した生徒、御所市水平社博物館の現地学習会に参加した2年生など普段できない体験を多くのみなさんができたのではないのでしょうか。この夏休みにみなさんはいくつ何かに「挑戦」することができたでしょうか。

1学期の終業式でみなさんに二つのことをお話ししました。一つは、入学式でお話したサッカー日本代表が掲げる「リスペクト」についてです。2学期にはよりお互いが仲間、先生、施設、保護者、学校に関わる全ての人やものに「リスペクト」できる「フェアで誇れる」白鳳中学校にしていきたいと思います。二つめは、「The Power of Yet」(まだまだの力)です。何かができないのは、今できないだけであって、「まだできない」(Not yet) すなわち、「ここからできる！」チャンスがあるということです。「できない」は成長の始まりだということです。

今年4月に実施された全国学力・学習状況調査の本校の内容を分析すると次のようなことが分かってきました。

【生徒質問より本校の特徴・強み】

- ・ 国語や数学の問題を解くにあたり、「最後まで回答しようと努力した」割合が年々増えている
- ・ 全く回答しない無回答率が県・全国と比べても低い
- ・ 家族に悩みを「ほぼ毎日」話す生徒が多い → 家庭でのひらかれた関係性や心理的安全性が保たれている
- ・ 平日3時間以上勉強する生徒が非常に多い → 家庭学習が習慣化されている、受験に向けた努力の姿勢の高さ
- ・ 読書時間2時間以上する生徒が多い → 読書に対する興味・関心の高さ
- ・ 学校に行くのが楽しいと思う生徒多い(86.5%) → 学校での学びや友達との交流、学級や学年集団



【本校の課題】

- ・ 人とちがう意見を言っても否定されないと感じる生徒の割合が少ない
→ より対話や学び合いをしていくことで自分とは異なる考えや意見を尊重する学級や学年、学校づくり
- ・ 平日4時間以上のSNS・動画視聴が非常に多い → 家庭でのスマホやタブレット活用のルールづくり
- ・ 読書時間「全くしない」生徒も多い → 身近にある図書室・図書館の活用、スマホ時間を読書へ

最も注目したのは、白鳳中学校の生徒は、「粘り強く」、困難に出合っても学び続ける力があるということです。ただし、まだまだ十分とは言えません。もっとその力を伸ばし、何事にも時間をかけて、何度でもやり直しをしてでも「やり抜く力」をつけることが大切です。それは中学校を卒業してからもみなさんの大きな力となります。

この2学期、みなさんは何をやり抜きますか。2学期はたくさんの行事があります。合唱コンクールや体育祭をぜひこの「やり抜く力」で成功に導きましょう！

毎年、ここで紹介している

「Play Learning」(学ぶことを楽しみましょう)

をこの2学期も継続していきましょう。

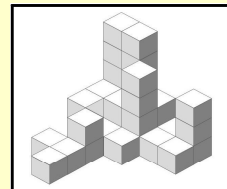
やり抜く力

Play Learning

校長先生からの特別課題

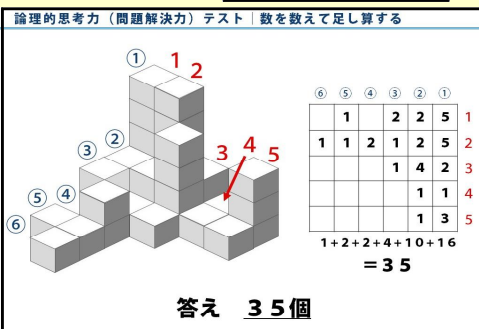
積石数え！

問「右図の積み重ねられたブロックの数を数えてください。見えないところにも隙間なくブロックは積み上げられています。どうやって数えるかも考えてください。」



答え

まず明確にしたいのは、「積まれているブロックが何×何のマスの上ののっているのか？」です。これが先にわかっているだけで、あとは一つずつのマスに乗っているブロックを数えていくだけです。この「積まれているブロックが何×何のマスの上ののっているのか？」を明確にしておくのが「全体像を明確に定義する」ということであり、「分析と統合」の「統合」をやっている状態です。6×5のマスの上にブロックが積み重ねられていることがわかります。ここまで見れば、あとは1マスずつ丁寧に数えていくだけです。



戦後81年を迎えたこの夏、みなさんは「平和」についてどう考えますか？

令和8年8月9日

長崎平和祈念式典で爆心地から500メートルにあった山里小学校で歌い継がれてきた「合唱曲 あの子」が同小学生により披露されました。

ふれあい交流会



夏休み中に磐城児童館で市内の乳幼児とのふれあい交流会に参加しました。小さな赤ちゃんとふれあうことで癒やされた時間を過ごすことができました。

「あの子」

作詞 永井隆（ながいたかし）

作曲 木野普見雄（きの ふみお）

一、壁に残った落書きの
幼い文字の あの子の名
呼んでひそかに耳すます
あゝ あの子が生きていたならば

二、運動会のスピーカー
聞こえる部屋に出してみる
テープ切ったるユニホーム
あゝ あの子が生きていたならば

三、ついに帰らぬおもかげと
知ってはいても夕焼けの
門（かど）に出てみる 葉鶏頭
あゝ あの子が生きていたならば

2年生現地学習会



8月19日（水）午前に御所市水平社博物館にて2年生現地学習会を実施しました。市内中学生の有志が集まり、本校から当日、23名が参加しました。

爆心地から500メートルの地点にあった長崎市立山里小学校では、原爆によって1,300人の児童と先生が一瞬に命を絶たれました。近くで保養を続けていた被爆医師・永井隆博士は、あの子らの霊を慰め、平和への足がかりにしようと、生き残った児童たちの原爆体験記「原子雲の下に生きて」の出版を援助、その印税で「あの子らの碑」を校庭の片隅に建立しました。さらに、博士自ら「あの子」を作詞し、長崎市議会事務局長の木野普見雄さんに作曲を頼み、昭和24年11月3日に行われた碑の除幕式で、山里小学校児童の歌で披露されました。

以来、「あの子らの碑」には千羽鶴が絶えることがなく、歌の「あの子」も、碑の除幕式のあった11月3日前後に毎年碑の前で聞く平和祈念式などで、今日まで歌い継いでいます。

保護者の皆さまへ

長かった夏休みも終わり、2学期がスタートいたしました。まだまだ暑さが残る中ではありますが、生徒たちの元気な声に学校も夏休みの校舎の静けさから活気を取り戻しています。夏休み明け、生徒のさまざまな変化を注視しながら、保護者の皆さまともさらに連携を取りながら2学期の学びを進めてまいりたいと考えております。まだまだ厳しい暑さが続きます。登校前にお子様の健康状態を確認いただき、水分補給のための十分な飲み物の準備を重ねてお願いいたします。

また、2学期は、たくさん学校行事があります。保護者の皆さまにもできるだけ応援いただけるよう指導していきたいと考えております。今学期もどうぞご支援・ご協力をお願い申し上げます。